



愛光NEWS

2022年6月

2022（令和4）年 7月 発行

（編集）愛光本部企画室

（TEL）043-484-6391

（メール）<https://www.rc-aikoh.or.jp/>

関東地方は昨年より8日早く梅雨入りし、19日早い梅雨明けとなりました。これから本格的に暑い夏となります。コロナだけでなく熱中症にも十分気をつけていかななくてはなりません。

体調に注意して、みんなで、この夏を乗り越えていくためにも、日常の中で見つけた楽しかったことなど、皆さまにお届けします。

□事業経過など（2022.6.1～）

月/日(曜)	記 事
6/1(水)	地域食堂委員会
6/2(木)	メンター委員会
6/5(日)	地域食堂ともいき研修
6/7(火)	業務執行会議/BCP 説明会 世界バンタム級3団体王座統一戦で、井上尚弥が、ノニト・ドネア（フィリピン）に勝利
6/8(水)	地域共生プロジェクト
6/9(木)	広報委員会
6/10(金)	感染拡大で停止していた海外からの観光客受け入れが、団体ツアーに限って解禁 理事会/「ケアニン」映画上映会
6/11(土)	「ケアニン」映画上映会
6/12(日)	感染症対策・衛生委員会/防火・防災委員会
6/14(火)	新卒採用試験/地域食堂お弁当配布/栄養改善委員会
6/15(水)	ボランティア委員会/広報委員会
6/17(木)	佐倉圏域実績会議/めいわ食事会/いろどり班運動会
6/21(火)	障害者支援事業部実績会議/地域福祉事業部実績会議/財務プロジェクト
6/22(水)	高齢福祉事業部実績会議/はちす苑経営改善プロジェクト/防災訓練（児）
6/23(木)	評議員会/オレンジカフェ
6/26(日)	群馬県伊勢崎市で40.1℃を観測。6月での観測は全国初。 先進7か国首脳会議（G7サミット）がドイツ南部エルマウで開幕
6/27(月)	コンプライアンス委員会
6/28(火)	退職辞令交付式
6/30(木)	

■おもな出来事

□理事会・評議員会

6月11日、2022年度第1回の理事会、6月26日には評議員会が開催された。2021年度の事業報告および決算報告、監事監査報告が行われ、また、社会福祉充実計画についての変更が了承されました。業務監査では、新型コロナウイルスの感染予防対策および権利擁護の取り組みについて、以下のような講評をいただきました。

①新型コロナウイルスの感染症予防対策

施設・事業の運営管理については、新型コロナウイルスの感染症予防対策については、法人の全ての事業所において細心の注意を払い取り組みがされていた。職員一人一人の感染予防に対する意識の高さと日々の努力を評価したい。

②権利擁護

福祉サービスの質の向上のための取り組みについては、職員一人一人の施設利用者の権利擁護に対する自主点検活動として「権利擁護に関する職員アンケート調査」を9年間続けてきているが、調査項目にポジティブな回答が可能となる項目を追加し、コンプライアンス委員会を中心に職員の権利擁護に対する意識をさらに進めていくよう努めている。調査結果に基づいて把握された課題を今後の支援に引き続き活用して欲しい。

■月報から

□お別れ会

愛光では7月が異動の時期でもあるため、6月は利用者も職員も異動があるのか無いか、何か落ち着かない感覚がある。今回は異動ではなく、在勤18年、めいわの課長としては12年のベテラン職員とめいわで10年間生活支援員として勤めていた職員が退職された。

26日の日曜日はあおばの会（利用者自治会）の日であったため、そこで2人のお別れ会を行った。以前より、課長は時々利用者と調理実習を行っていた。今回はそのお返しとして、今まで作ってくれた料理を4か所ある食堂でそれぞれ作り、2人には各食堂を回ってもらい、そこで作った料理を食べてもらいながら利用者と過ごした。今回の企画内容は現場職員が課長の姿を見て発案されたもの。素敵なアイデアだったと思う。課長は時々笑いながら「利用者にもっと愛を込めないと！LOVE注入が必要だ！」と仰っていた。職員皆も課長から愛を注入されていたし、私たち職員もその思いを受け継げたらと思う。

（めいわ課長 中田 憲一郎）

□猛暑のはじまり

気象庁は28日に梅雨明けを発表した。特に6月下旬は暑い日が続いておりエアコンが必要な時期に突入した。そんな暑い日の午後、日中活動でプールを行った。利用者が喜ばれると思えばの職員が準備をして開始したが、職員の思いとは違って、20代の利用者以外はほとんどプールに入らなかった。気温が高くても水温が低かったのか、それとも利用者の年齢が上がってきたからか理由はわからないが、以前のような人気ではなくなったかもしれない。夏の楽しみはたくさんあるので今年の猛暑も楽しく過ごしていければと思う。

(ルミエール課長 原 宏之)

□オレンジカフェ

26日 南部地域福祉センターでオレンジカフェが行われ、エレクトーンクラブのメンバーが演奏した。「川の流れるように」「涙そうそう」「ブルーライトヨコハマ」「ふるさと」を演奏。良く知っている曲だった為観客の反応も良く好評だった。アンコールでは「上を向いて歩こう」を演奏し、利用者も楽しい時間が過ごせたと笑顔だった。以前は学童保育での演奏が多く、子供向けの曲が多かったが、コロナ禍の外部演奏はオレンジカフェのみとなっている。聴きに来てくださる方の年齢に合わせた曲を練習し、少しずつレパートリーを増やしてきた。また、昨年度は法人内でコロナ罹患者が発生した為、会場に行くことができず、残念な思いをした。今回は、万が一の時にオンラインで演奏を届けられるか、事前に南部包括の職員と一緒にリハーサルを実施した。無事に成功し、どちらに転んでも対応できるよう準備は万端だった。幸い会場に行くことができた為、練習の成果をいかんなく発揮し、満足のいく演奏をすることができた。

(リホープ課長 稲垣 直子)

□子供たちが楽しめるように！

よもぎの園の倉庫の片隅にあり、長く日の目を見ることがなかったカラーボールが、南部児童センターの遊具として再び表舞台にでる機会が巡ってきた。指定管理受託以前に運動会などで使用されていた物品の一つであり愛光になってからは使用されることはなかった。先日、児童センターに問い合わせたところ、需要はあるとのことで貸し出すこととなった。コロナ禍や対象年齢が1、2歳児ということもあり都度の消毒も必要とのことでそれもセットでおこなうこととした。

まずは長年の汚れを落とす作業から始め、色を分けたり、数を数えたりと作業科目も整理した。利用者にはきちんと使用される目的を伝えながら子供たちが楽しんでくれるようにと丁寧に磨き上げてくれた。

今後も継続的に貸し出しのオファーをいただければ“よもぎのカラーボール”もまだまだ現役として活躍をしてくれるのではと密かに願っている。

(佐倉市よもぎの園 近藤 真一)

□印刷受注の連携

八千代市にある「はばたき職業センター」（社会福祉法人八千代市身体障害者福祉協会）は福祉施設の作業として古くから印刷事業に取り組んでおり、ワークショップかぶらぎが現在の地で印刷機器を本格的に導入するにあたって見学に伺い、色々と参考にさせていただいた事業所である。

今月、突然に「かぶらぎを見学させていただきたい」と申し出があった。2名のスタッフが来所され、新規事業として生活介護を立ち上げたこと、印刷事業における連携の提案をいただいた。はばたきが持つ「オフセット印刷機」かぶらぎが持つ「オンデマンド印刷機」はそれぞれメリットデメリットがあり双方を取り揃えると盤石な体制となる。どちらも数百万円から上を見ればきりが無い金額になる規模の機材であり福祉事業所でどちらも持っているという所は聞いたことがない。

互いに利益のある案件の取り方ができればやるメリットはある。今後もう少しやり取りを続けながら検討を継続したい。

（ワークショップかぶらぎ 宮部 和樹）

□“灯工房”と“falo”の対面販売を実施

地域食堂の弁当配布の際、一角をお借りして、根郷通所センターの作業班である“灯工房（陶芸班）”と“falo（木工班）”の作品を地域の方に買っていただく機会を得ることができた。各種500円均一で販売することとし、完売とはいかないまでも、それなりの手ごたえを感じることができたようである。今後は道の駅など一般販売で勝負をする予定。売れた喜びの余韻に浸りつつ、お楽しみ会を実施し、気持ち新たに商品作りに励むことを確認し合ったとのことである。

（めいわ通所部所長 菊地 暁生）

□佐倉市グループホーム事業所連絡会より

23日（木）に「佐倉市グループホーム事業所連絡会」が、ジョーの家含め12事業所、印旛圏域グループホーム等支援ワーカー1名、佐倉市障害福祉課3名によって開催された。連絡会では、事業者間での意見交換がされたが、そのなかで、空床問題が上がった。特に営利法人が経営しているグループホームに空床が目立っている様子。どのホームも、経営面から世話人をパート化している。社会福祉法人等では、研修制度があり、ある程度世話人の質の向上が望むことができるが、小さなホームでは、疑問点があっても解決するための知識・技術を補うことが難しい。そのため対象者を広げることが難しく、入居者を選ばざるを得ない様子も伺えた。グループホームは、障害者が地域で暮らしていくための一歩を担っている。連絡会としては開設されたホームを地域の大事な資源となるよう相互交流等を図り、対象者の枠が広げられ、空床問題をホーム間で支えていくことも考える必要があるのではないかと捉えている。

（ジョーの家 高橋 健）

□本当に必要なこととは…

24日に夜間想定総合防災訓練を実施した。地震発生後にキッチンから火災が発生したという想定でおこなった。マニュアル通り、地震発生後の安全確保・避難経路確保訓練、火災による初期消火訓練、119番通報訓練、避難誘導訓練の手順である。一連の流れは、入所施設での訓練と全く同じ工程である。

山王の家の構造と職員配置から入所施設とは異なるグループホーム独自の避難マニュアルを改めて再構築し、大規模災害に備えたい。

(山王の家管理者 高梨 和憲)

□デイサービス 3カ月連続 80%越え

令和4年2月から稼働率が70%後半まで回復し、4月から80%を超えるようになった。要因はいろいろあるが(営業活動はもちろんであるが)、新規依頼を断らずスタッフが頑張ったことが大きい。また、病院通院や何か用事でキャンセルがあった場合は、可能な限り別日に振替をしていただいた。このような地道な努力は、本当に大切である。

(はちす苑 苑長 麻生 知明)

□ボランティア運営委員会

今年度1回目のボランティア運営委員会が開催された。運営委員会は、ボランティアや企業、障害者団体等で形成され、ボランティアセンターの円滑な運営、また、市内のボランティアの活性化、各団体の状況把握など情報交換を行っている。市内には3か所のボランティアセンターがあり、2カ所を社会福祉協議会、愛光が1カ所『南部ボランティアセンター』を運営している。ボランティアの斡旋等に関する相談は圧倒的に社会福祉協議会の運営する佐倉市ボランティアセンターが多い。南部ボランティアセンターの存在も広く認知してもらえよう広報活動を行っていききたい。その第一歩として、9月にボランティア講座『はじめてのボランティア』を開催する予定だ。

(南部地域福祉センター 小出 博美)

□小中学生も思う存分に楽しんで(県民の日)

6月15日(水)県民の日、午後からは小学生以上の子どもたちにも楽しんでもらおうと、新たに「バルーンアート」と「ストラックアウト」のコーナーを企画した。バルーンを器用に膨らませて剣やサーベルを作ったり、真剣な表情で「ストラックアウト」の的をねらう子どもたち。「ストラックアウト」は、順番待ちの長蛇の列ができるほど盛り上がった。しかし、ボールの消毒が間に合わなくなった。すると、5年生の女子2人がさりげなく消毒作業をかってでてくれた。子どもたちから元気、優しさを分けてもらった1日となった。

(南部児童センターインストラクター 猪間 美晴)

□再びの…

コロナ禍になり、ついに地域の学校で初の学級閉鎖の対応が図られた。関連の学童では、再び緊張感が漂った。そもそも、学童では、当日利用した児童の行動をメモや画像で記録している。“一緒にいた子”“使ったおもちゃ”“近くにいた子”“隣にいた子との距離”“おやつの摂取状況”“使った場所” マスクの素材“・・・”など、罹患児童が出るたびに遡って、2日分の様子を市に報告するためである。

遡って報告するための記録は非常に大事だが、その業務ばかりを担ってはいられない。記録は最小限にとどめ、一緒に遊びながら安全確保したいところである。徐々に記録の最小限にシフトしてきたところで、コロナが静かに再燃の兆しとなった。

少し前までは罹患者数も落ち着いてきたので「さて、夏休みにはどんなイベントを企画しようか」などと期待感をもっていたのだが・・・。

できることをできる範囲で、最大限に面白く！子どもたちとの長くて暑い、熱い夏に向け、知恵を絞っている。

(学童保育所主任 平野 美幸)

□Aikoh フォーラム「ケアニン」上映会開催

11日(土)、12日(日)の2日間に渡り、「ケアニン～あなたでよかった～」の上映会を開催した。コロナの影響もあり、3月の開催延期から、ようやく開催することができた。計3回の上映で、92名が鑑賞された。事前予約から、県外や市外からの問い合わせもあり、反響の大きさを感じた。

ケアニン上映の目的は、認知症の理解と地域への啓発として考えていたが、鑑賞後のアンケートでは、それ以上に人と人、地域との繋がり、介護の仕事に対する思い等、映画を鑑賞された一人一人それぞれが感じられたことが書かれており、主催者側として胸が熱くなった。

また、今回は上映会と同時に、視覚障害者のための用具や見守りグッズなど福祉用具の展示会、補聴器の相談会、よもぎの園の販売会も開催した。そのために足を運んで下さった方もいた。

「コロナ禍でも企画してくれてありがとうございます」と言って下さる方もおり、企画して本当に良かったと感じた。

(総合相談センター所長 森 由美子)

■職員状況 (6/30現在)

	人数	前月比
正職員	176	-1
サポート職員	38	
非常勤職員	158	1
計	371	